

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200371		
法人名	株式会社 W (ダブリュー)		
事業所名	ういるグループホーム泊		
所在地	三重県四日市市泊山崎町2-11		
自己評価作成日	令和6年1月1日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和6年1月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①利用者様にとって当施設での生活が、家族様との生活により近く、自然で楽しくそして、美味しい食事を沢山召し上がって頂き、職員の顔を見ると安心して頂けるよう、日々力を入れている。②季節を感じて頂けるよう、行事や制作にも力を入れている。③畑で季節の野菜や花を育てている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ういるグループホームは、四日市市内を拠点として、県外も含めて7か所あり、昨年社会福祉法人の特別養護老人ホームを市内に開所した。「ありのままにその人らしく」を理念に掲げ、利用者・家族・職員・地域に寄り添う事業を展開している。代表は、職員に年2回の人事考課の面接の他、個別にカウンセリングを受け、メンタル面でフォローする仕組みを作っている。きめ細かな取り組みが反映して、職員は、利用者の行動のテンポに合わせて、ゆっくり、優しく、丁寧に接している様子を、昼食後のお膳下げや服薬介助の場面で何うことが出来た。最寄り駅近くの事業所は、民家の中にあり、コロナ禍以前には子ども食堂等を開き、地域の子供達と利用者が一緒に食事をして賑わった。地域住民の活動が盛んな土地柄で、今後利用者が家族や住民とともに活動できる楽しい催しを計画していきたいと管理者と職員は考えている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念は「ありのままにその人らしく」認知症であっても、その人らしさを大切に、事業所理念は「共に楽しく、共に笑顔で一日一日を大切に」利用者と職員の笑顔溢れる時間を過ごせるように努めている。	「ホームで集団生活をしている内に、殆どの利用者のその人らしさが失われていく気がする。」と、介護支援専門員が言い、利用者と個別に話をして本人の思いを引き出す実践を、職員が志を一にして取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で参加を中止とさせていただいていたが、5類となり行事等も再開されて、自治会主催の公園清掃等に参加させていただいている。	地元の祭りには、諏訪太鼓保存会の会員達が事業所前でお披露目をして下さった。伝統行事である白髭神社の年末合同清掃等に管理者が参加をし、地域のサロンに利用者と職員が参加して地域の高齢者と交流した。台風時には近所の老夫婦が事業所に避難し、職員や利用者とともに過ごした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民も参加できる、祭りやイベントを計画実践し、事業所に対する理解が深まる取り組みをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年10月より対面の会議を実施させていただいている。施設の運営に関する報告及び利用者の日常生活を報告させていただき、構成委員の意見・アドバイスをいただき実行している。	運営推進会議には、地元自治会長・民生委員・老人会会長・在介・包括支援センター・市介護保険課職員・家族・利用者等が参加をし、活発に意見交換をされ、文書で参加の際にも必ず意見が交わされ、事業所は内容を反映するように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でも四日市介護保険課から参加していただき、ご意見をいただいている。	12月に市介護保険課担当者による運営指導で、加算の方法等の指導を受けた。日常的に介護支援専門員は市介護保険課の窓口を訪れ、利用者の要介護認定更新の代行申請を行う際に、担当者と対面で話し助言や情報提供を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を3カ月に1回開催し、職員会議にて身体拘束を有無・内容等の確認を行い、その検討結果を運営推進会議で身体拘束委員会からの報告を実施している。	ういるグループホーム全体で3か月毎に身体拘束適正化委員会を開会し、内容は事業所毎に職員会議で全職員に周知徹底に努めている。2か月毎に研修会を開会し、身体拘束と虐待防止は繰り返し学習している。現在つなぎ服着用身体拘束を実施している3ケースについての対策検討を継続している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を3カ月に1回開催し、職員会議にて高齢者虐待防止に関する研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修等を開催し周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、利用者・家族に理解して頂き承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度、書面にて状況報告を行い、家族との面会時に、意見や要望を聞かせて頂いている。	家族がおむつや消耗品を届けてくれる時に、職員は家族と会話をし意見や要望を伺っている。コロナ禍に家族アンケートを実施し、事業所への要望を伺ったら「早く外出をさせて欲しい」と要望があり、今年度から徐々に外出の緩和を可能にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や管理者会議の場で提案できる機会を設けている。また、年2回人事考課の際に、職員と面談する機会を設け、意見を聞いている。	管理者と職員は年2回の面接機会を持ち、業務に対する自己評価と管理者による評価、給料等について話し合い、管理者は個々の職員意見を運営に反映させている。日常的にも職員は管理者に気軽に意見や要望を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の際の研修費負担など向上心を持って働けるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修機関からの案内や自分の興味がある研修に参加出来るよう情報提供してる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の中で介護施設の管理者、ケアマネ、介護関係者の方々と意見交換や、指導を頂いている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉をそのまま記録に残し思いを知り、要望を職員間で共有している。本人の意向や家族の意向をできる限り実現していけるよう周知し取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調不良や何かあったときだけでなく、面会時、家族に声を掛け、近況等を伝えるようにしている。 その都度細かなことでも家族に連絡し話ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	3ヶ月に1回本人・家族・職員と意向や希望など話し合いが出来る機会をつくらせている。訪問看護、訪問歯科などサービスを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯や料理等は職員だけで行わず入居者と一緒に行っている。また、毎月のカレンダーを共に作成している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月に1回本人・家族と意向や希望など話し合いが出来る機会をつくっている。本人にとっての今の課題について一緒に考えたり、家族にも本人の気持ちを伝え、出来る限り偏りのない支援に繋げる努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少人数でのドライブで馴染みの場所へ出かけたり、レクリエーションに取り入れられたり、個々の会話にて思い出話をしたりしている。	近所から入居してきた利用者の「家に帰りたい」「家族に会いたい」要望を叶えるために、職員は何度も利用者とともに自宅を訪れた。利用者に馴染みの電車に乗って、近鉄百貨店や「昭和の暮らし展」を見学して懐かしんだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の盛り付けや洗濯物たたみを一緒にしていただくなど、入居者同士が関われる環境を多く見つけ共同生活が送れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ入所が決まった方へ、入居者と一緒に面会に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望のほか、バックグラウンドをアセスメントできるよう努めている。困難な場合は本人の表情や行動、言動の情報を収集し、本人本位のケアができるよう支援している。	入居当初に、家族の協力を得て、センター方式を活用してアセスメントを実施し、本人と会話出来る内に多くの情報を収集し、本人の思いを把握したいと職員は日々努力している。把握した利用者の情報は職員会議のカンファレンスで伝え共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に私の暮らしシートを使用し、生活歴の把握に努めている。生活習慣や馴染みの環境が入居後も継続できるようにアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	馴染みの生活習慣を把握し、できるところとできないことを知り、自分らしく生活できるよう心身の状態を把握して、個別に対応できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らせるため課題をケアについて、本人、家族と話し合い、初回はケアマネージャーからの情報(利用していたサービス事業所の様子など)の意見をもとに介護計画を作成している。	介護支援専門員が利用者の基本情報を市指定の生活チェックシートに記載し、介護計画書を作成する。毎月カンファレンスを開き職員に意見を聞いてモニタリングを行い、6か月毎に評価・見直しを実施している。モニタリング・評価を来年度から担当職員が行う予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の発言や様子、変化を個別記録に記入し、情報を共有を行っている。月に一度はカンファレンスを行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて専門医への受診を行なっている。また訪問美容など、その時のニーズに合わせた対応、サービスを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の高齢者サロンなどに参加し、交流の場を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望された場合に訪問診療に変更し、24時間体制をとっている。精神科や整形外科などの受診は施設と家族で支援し、適切は医療を受けれるように支援している。	利用者全員のかかりつけ医は協力医であり、2週に1回訪問診療を受けている。1日に1名を診療し、協力医はほぼ連日事業所に来所するため、利用者の急変時には適宜に受診が出来る。訪問看護師が2名で週1回来所し利用者の健康管理を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用し、週に一度、一人ひとり健康チェックを受けている。体調に変化があった場合、主治医に報告、相談し、必要なケア、適切な受診を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	生活チェックシートで情報共有を行い、診療情報の提供は主治医にお願いしている。入院中においても情報収集を行い、退院時にはカンファレンスに参加して、介護計画の見直しを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居面談時から重度化および終末期の対応において、本人、家族等に事業所の方針を説明し、同意を得ている。重度化、終末期など状態に変化があった時に適宜本人と家族等の意向を確認している。	昨年、1名の利用者の看取り介護に対応をした。家族が3日間事業所に泊まって、医師・看護師・事業所職員とともに看取った。看取りを終えて、職員で振り返り話し合っている。昨年市内に系列会社の特養ホームが開所し、重度化した際の選択肢として本人、家族に情報提供を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修や勉強会を行い、初期対応や応急手当を学び、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震・津波を想定した訓練を、年2回実施している。地域との協力体制も築いていけるよう努めている。	6月と11月に津波発生を想定した避難訓練を実施し、避難場所のイオン2階まで車で避難するシュミレーションを行った。台風時には、近所の高齢者夫婦を事業所で一時避難を受け入れ、自治会との協力体制も構築している。	「自治会長の協力により決めた前回までの避難場所の再確認」「避難訓練実施記録の充実」「災害の種類に応じた対策の在り方を職員に周知徹底する」等の取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にて、権利擁護の研修を開催している。それぞれの人格や性格、認知症の症状の違いを理解し、認知症があっても、周りとの関わり方を考えその人を尊重し、今できることを見つけていけるよう努めている。	一人ひとりを尊重し、特に名前の呼び方に気を使い、言葉かけも各々の利用者に合った仕方を工夫している。11月の職員研修会では「身体拘束及び接遇について」学び、「皆さんにやさしい声掛けを心掛けましょう。」と、月間目標を定め取り組んだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなく、本人に意志確認をし判断してもらっている。入浴や着替えについても意志確認を行い、本人の判断で行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時は、既定の時間に声掛けをするが、本人の意思を尊重し、出来る限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じものを着るのではなく、本人と話し、上下色を合わせたりして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事形態を把握し、好みの物や、そうでない物もアレンジにより美味しく召し上がって頂ける様、日々考慮し、利用者と一緒にいる。	献立と食材調達を業者に委託し職員が交代で調理を担っている。11月に食事レクでイオンフードコートに行き外食を楽しんだ。ビッフェ式バイキングを開いたり、たこ焼き、ラーメン、ハンバーガー等利用者のリクエスト食で楽しむ機会を多くしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録に残し、食事や水分摂取の低下が見られたり、体調等を考慮して、補食等を提供している。糖尿病の方にも、過度な摂取にならないよう量の管理を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを促し実施している。必要に応じて介助支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録より、個々の排泄パターンを知り、その方にあった時間で声かけをしている。自分でトイレに行くが失敗のある方には、自尊心を傷つけないよう配慮しながら交換している。	共用トイレが3か所あり、職員が声掛けをしてトイレへ誘い、トイレでの排泄を支援している。紙おむつを使用していた利用者も日中はリハビリパンツに変えてトイレで排泄が出来るように支援した。夜間はポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取できるように、本人の好みに合わせた飲み物を提供している。毎日の体操・散歩をするなど規則正しい生活が送れるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人が望まない時は変更を行っている。入浴剤を3種類用意し、本人に決めていただき入浴している。	各々の利用者は、週に2回の入浴を基本とし、予定日に入浴しなくても他の日に出来るように配慮をし、利用者本人の意思や気持ちを尊重して対応している。色付きの湯を好み、本人が好みの入浴剤で気分良く入浴出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を見て臥床時間を設けたり、夜間は入居者のペースで居室に戻ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排便、皮膚状態、食事摂取量、体調や行動の変化があれば、訪問診療時に医師に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設の畑作りや新聞購読等、今までの生活や趣味が継続してできるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じた場所への散歩や、地域の情報を収集し参加できそうな行事に参加している。また、季節を感じてもらえるような外出行事を企画している。	徐々に外出機会を増しイオンで外食、地域サロンに参加、戸外でバーキュー、白髭神社へ初詣に行った。日常的には敷地内の畑や散歩、近所の自販機やコンビニで買い物、管理者に同行して市役所や消防署に同行する等、様々な工夫をしている。コロナ禍で筋力が低下傾向のため、家族が面会時に利用者と散歩を提案したいと検討中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを使う時には介護者が支払いを行うのではなく、自身で支払いをもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話を掛けたい時には意向に沿っている。また、正月には年賀状を書き、家族にだしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った植物を一緒に育てており、季節感が感じられる装飾も行っている。また、湿度・温度を測定し過ごしやすい空間づくりに努めている。	明るく広々とした食堂兼リビングで、利用者はゆったりと過ごすことが出来る。オープン式のキッチンで、職員は調理をしながら、リビングの利用者と会話をしたり、利用者の様子が伺える。プレイルームが隣接し、ソファを配置してガラス越しに外部の風景や通行人の姿が眺められるが、そこでくつろぐ人が少なく、活用方法を検討中である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を固定せずに誰もが好きな場所に座れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には好みの家具や、好きな張り紙や絵を飾ったり、思い出の写真を置いたりして、気持ちよく過ごして頂ける様工夫している。	ベッドと寝具は事業所が提供し、整理タンス等自宅で馴染みの用具を持ち込んで、現在も使い続けている。家族写真やお気に入りの絵を飾り、居心地よく過ごせるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の認知度や自立度に応じ、日々の生活を自身で行って頂ける様支援している。		